

日本地質学会シンポジウム
「科学を文化に - 学校教育・地学分野のこれから - 」

日本地質学会第 116 年学術大会（於 岡山理科大学）において、地学教育に関するシンポジウムを、地学教育学会と共催いたします。

日時：平成 21 年 9 月 6 日（日）、9 時～12 時

会場：講演会場 43

【趣旨】

小中学校の来年度入学者から実施される新学習指導要領下での理科の学習指導は、自然体験・科学的体験・科学技術教育・環境保全教育・言語活動が重視されるようになります（高等学校は 24 年度入学者から）。また理科の時間数が大幅に増加して、学習内容が充実されます。このような背景のもと、本シンポジウムでは文系・理系両生徒に対する理科教学習（地学分野）の動機付け、自然体験型の実習あるいはアナログ実験の方法などについて議論します。また、大学ではいわゆる「ゆとり教育」の世代の学生たちが教師になってから困らないように手当てする必要もあります。これらの課題についても、履修指導、授業実践などの立場から話題提供していただく予定です。

また、長く「地域を生かした生徒自作標本による岩石・鉱物学習」を進められてこれ、平成 20 年度東レ理科教育賞文部科学大臣賞に輝いた、杉山了三氏からも地学の授業実践の一端をご紹介します。

プログラム

| | | |
|-------|-------------------------------------|-----------------------|
| 9:00 | シンポジウム趣旨説明 | |
| 9:05 | 地学教育の現状と今後の方向性 | 牧野泰彦（茨城大学、日本地学教育学会会長） |
| 9:25 | 新学習指導要領で目指すもの－高等学校理科「地学基礎」「地学」を中心に－ | 三次徳二（大分大学） |
| 9:45 | 新学習指導要領実施に向けて地学履修者を増やすための方策 | 芝川明義（大阪府立花園高校） |
| 10:05 | 京都における地学教育の現状と課題 | 紺谷吉弘（立命館高校） |
| 10:25 | 休憩 | |
| 10:35 | 地域を生かした生徒自作標本による岩石・鉱物学習 | 杉山了三（岩手県 |

| | | |
|-------|---|--|
| | | 立宮古高校) |
| 10:55 | 社会と近接した教育テーマとしての ” 津波” とその教材としての “津波堆積物” – NHK 教育 TV 高校講座地学「きしみ割れる大地」の番組制作を例として – | 七山太 (産総研) |
| 11:15 | 知識社会における地球科学の重要性と地学教育 | 藤林紀枝 (新潟大学)・中井睦美 (大東文化大学)・藤本光一郎 (学芸大学) |
| 11:35 | 総合討論 | |